

		【修正日】平成30年 1月31日
【大分類】設計一般	【小分類】桁橋	【作成日】平成20年 4月 1日
<p>【Q-10】</p> <p>張出し架設を行う場合、施工時の主桁上縁のコンクリート引張応力度の制限値はどのように設定したらよいか。</p>		

【キーワード】 施工時, 上縁, 許容値

<p>【A-10】</p> <p>道路橋示方書Ⅲ3.4.1(8)に「施工時の限界状態は、施工途中の各段階における材料強度、構造等の条件及び完成形での限界状態を満足できることを考慮して適切に設定しなければならない」とあり、道路橋示方書Ⅰ3.3解説(3)には「部分係数設計法が導入されたこの示方書においても、多様な工事期間や方法に適用できる作用の組合せや作用に考慮する部分係数を規定することが行われていない。工事ごとに個別に検討を行い、適切に設計を行うことが基本的な考え方となっている」とある。</p> <p>なお、H24年版の道路橋示方書Ⅲ表-3.4.2では「施工時=2.5N/mm<sup>2</sup>」となっていたが、これまでも張出し架設工法の設計の実態としては、設計要領第二集 橋梁建設編8章6-4(2)に基づき、主桁上縁のひび割れを防ぐために導入時のプレストレスを用いて算出する場合は「1N/mm<sup>2</sup>以下」に抑える場合が多いが、個別に発注者と協議して定めるのがよい。</p>
---

【参考文献】

道路橋示方書・同解説Ⅰ:(公社)日本道路協会(平成29年11月)  
道路橋示方書・同解説Ⅲ:(公社)日本道路協会(平成29年11月)  
道路橋示方書・同解説Ⅲ:(社)日本道路協会(平成14年3月)  
設計要領第二集 橋梁建設編:東・中・西日本高速道路株式会社(平成28年8月)